



デジタルの知識やスキルは、仕事だけでなく日々の生活にも必要。これからのワーク・ライフ・バランスを考える上でも重要な視点だ。

## 新しい社会常識としてのデジタルリテラシー

新学科の学びは、「データサイエンス」「デジタルデザイン」「ものづくりデザイン」の3分野から成り立つ。データサイエ

その一方で、中小企業の多くは、自力でウェブサイトを立ち上げることさえ難しいのが現状ではないでしょうか。デジタルの技術や発想は、企業経営者や管理部門の人だけでなく、現場の第一線で働く人にも必要なのです。そこに、私たち短期大学がデジタル教育に取り組む意義があります」と、新学科を率いる小山内幸治教授は言う。

「デジタルデザイン」分野では、ウェブデザイン、プログラミング、CGなどの技術を身に付けるとともに、それらをSNSなどを通じて発信する方法や、起業に生か



デジタルコミュニケーションに映像技術は欠かせない。専用スタジオでの実習も予定されている。

Message from Professor

「しかし、現在は短期大学という存在自体が大きく揺らいでいます。かつて全国に600校ほどあった短期大学が、今は300校ほど。日本の高等教育機関としての役割を終えてしまったのではないかと、議論もあるほどです。もちろん、私たちはそうは思いません。短期大学だからこそ、学生たちのために、そして地域のために、できることがあるはずですよ」と語るの

「SNSが炎上したり、知らないうちに著作権を侵害してしまったり、という事例は後を絶ちません。私たちは新しい社会常識として、倫理や法律を含めたデジタルマインドが必須だと考えています」

### 「個性」を磨く2年間に



デジタルマーケティングに「ロングテール」という考え方があります。地域で0.01%の支持しかなくても、全世界に視野を広げると大きな市場が見えてきます。そこで大切なのが「個性」です。あなたの個性に共鳴する人が、世界中にきっといます。本学で、あなたの個性に磨きをかけてください。

小山内 幸治 教授

### 「場」を通じて人間形成を



コロナ禍で本学もリモート授業を余儀なくされましたが、私は一日も早く対面授業を再開するよう努めてきました。重要なのは学生たちに「場」を提供することであり、その場を通じての人間形成です。デジタル化が進むことによって、かえってその価値が明らかになったと思っています。

秋山元秀 学長

# 知の泉 滋賀の研究 最前線

滋賀短期大学  
デジタルライフビジネス学科

21 Shiga Junior College  
Department of  
Digital Life & Business

## 「暮らしと仕事のデジタルリテラシー」 今、必要とされる「足もとの デジタル化」人材を育成する。

AIが人間の仕事を奪う。社会の利便性を大きく向上させるデジタル化の進展は、一方で、そんな危機感をもたらしている。この春、滋賀短期大学が開設するデジタルライフビジネス学科は、それに対する一つの答えだ。

### 現場で働く人にこそ デジタルの素養を

滋賀短期大学は1918年に設立された裁縫速進教授所が発端となっている。70年、滋賀女子短期大学開学。2008年に男女共学化、それに伴い滋賀短期大学と改称した。生活学科、幼児教育保育学科、ビジネスコミュニケーション学科の3学科を擁してきた、長い歴史を持つ地域の伝統校だ。時代の流れに際してさまざまな変革を行い、多くの人材を輩出してきた。

「しかし、現在は短期大学という存在自体が大きく揺らいでいます。かつて全国に600校ほどあった短期大学が、今は300校ほど。日本の高等教育機関としての役割を終えてしまったのではないかと、議論もあるほどです。もちろん、私たちはそうは思いません。短期大学だからこそ、学生たちのために、そして地域のために、できることがあるはずですよ」と語るの



新学科では、新時代に適応できる知識やスキルを身に付けていく。

は、秋山元秀学長。そのリーダーシップのもとに構想されたのが、4つ目の学科となるデジタルライフビジネス学科だ。これまで生活学科やビジネスコミュニケーション学科で培ってきたノウハウやリソースを生かしながら、DX(デジタルトランスフォーメーション)に対応できる人材育成を目指す。

「社会全体が、デジタル技術なしでは動かないような時代です。昨年9月、デジタル庁が発足し、世の趨勢は官民あげてデジタル化の方向に向かっていますが、